

おきなわ鉄軌道ニュースは、鉄軌道を含む新たな公共交通システム（以後、鉄軌道）の計画案づくりの検討状況をお伝えするため、県民の皆さまに配布しています。
当号外は各市町村役場をはじめとする公共施設等で配布しています。また、各委員会の詳細な検討資料は4ページに示す「沖縄鉄軌道構想段階 PI ホームページ」より閲覧、ダウンロードできます。



沖縄鉄軌道に関する 多くのご意見ありがとうございました！ 次はステップ3に移ります。

<那覇一名護間を1時間で結ぶ鉄軌道の導入に向けて>

- ★平成26年10月から鉄軌道計画案策定に向けた取組をスタート
- ★平成27年1月に、5つのステップに分けて段階的に検討する計画案づくりの「進め方」を決定
- ★1月から「進め方」に基づき、ステップ2として、「将来のあるべき姿」、「評価項目」等について検討を開始
- ★その間に技術及び計画検討委員会での専門家による検討やコミュニケーション活動を実施
- ★8月に開催されたプロセス運営委員会の審議結果を踏まえステップ3の検討に着手

■ ステップ2では、5167人の方から意見が寄せられました

- ・ 沖縄鉄軌道計画案づくりステップ2の検討内容について、県民の皆さまと情報共有を図るコミュニケーション活動を去る5月10日から1ヶ月間実施した結果、5167人の方から様々なご意見を頂きました。
- ・ また、県民を募って設置した「県民会議」の参加者や、交通事業者などの関係機関、市町村の皆さまからもご意見を頂きました。
- ・ 皆さまから頂いたご意見は45のカテゴリーに分けて整理しました（次ページ掲載）。
※全てのご意見(分類前)は、「沖縄鉄軌道構想段階 PI ホームページ」で紹介しています。



5月20日サンエー経家シティ オープンハウス

■ 頂いたご意見を計画案づくりの検討に反映させました

- ・ 皆さまから頂いたご意見については、7月から8月に開催された「技術検討委員会」及び「計画検討委員会」へ報告し、検討を行いました。
- ・ その結果、評価項目については、新たに3項目（他交通事業者への影響、フィーダー交通ネットワークを含めた視点、耐災害性）を追加しました。
- ・ また、将来の姿及びその実現に必要な対策について、具体的な沖縄の将来の姿が見えないとする意見も寄せられたことから、ステップ3以降において、将来の姿の具体的なイメージを沖縄の可能性として様々な観点から検討し、情報提供していくこととしています。



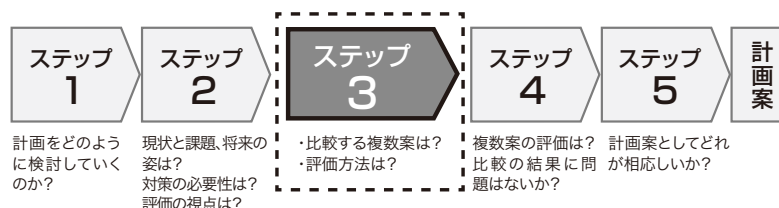
7月29日 第2回沖縄鉄軌道技術検討委員会

■ 計画案づくりはステップ3「複数案の設定及び評価方法」に移ります

- ・ 8月21日に「プロセス運営委員会」が開催され、ステップ2の検討及びコミュニケーション活動についての審議が行われ、これらについて適切に実施されたとの評価を得ました。これを受け県は計画案づくりのステップ3の検討に着手しました。

ステップ3で検討する内容

- ・ 鉄軌道導入も含めた複数案の対策を検討します。
- ・ 複数の対策案を今後絞り込むため、ステップ2で検討した評価項目の指標を検討します。
※沖縄の将来の姿の具体的なイメージについても検討します。



8月21日 第2回沖縄鉄軌道プロセス運営委員会

基本方針と検討の進め方（ステップ 1）

1. 基本方針

1) 検討開始のねらい

- 鉄軌道は、他の施策より優先度が低いのではないかと。他の施策を優先してほしい
- 鉄道整備の検討を始めるのが遅いのではないかと

2) 進め方に関する基本姿勢

- 検討プロセス全体を通じて、透明性、合理性、客観性、公平性の確保に努めてほしい
- 慎重に検討を進めてほしい
- 企業の利権とは切り離して、県民の声を聴きながら進めてほしい
- 県全体で取り組んでほしい
- 数十年先の長期を見据えた計画を検討してほしい
- 鉄軌道の導入ありきで検討しないしてほしい

3) 検討のスケジュール

- 検討のスピードをあげてほしい

2. 検討の進め方

1) 県民参画

- 県民会議等、鉄軌道に関わる取組に参加したい
- 県民として検討に協力していきたい

2) 検討の進め方について

- 外国を含め先進事例を参照しながら検討を進めてほしい
- あらゆる可能性を視野に入れて、整備案を幅広く検討してほしい
- メリットは大きい課題・問題も多そう
- デメリットも含めた検討が必要だ
- 大学などの教育機関と連携して幅広く検討してはどうか
- 誰のための鉄軌道なのか対象者を明確にしたほうがよい

3. コミュニケーション

1) 認知の向上や関心の喚起

- 県民に広く広報することは、とてもいい取組みであり、プロジェクトについて考えるきっかけになった
- ラジオやテレビ、新聞を活用して広く周知してほしい
- 多くの県民に関心を持ってもらうよう工夫する必要があると思う
- 今回初めて取組を知った
- 公共交通を利用したい、利用すべきと思った
- 多くの人に知ってもらう工夫が必要である
- 多くの人の理解を得られることが必要である
- インターネットや SNS で広報すべきである
- 高齢者や若者を意識した広報を行うべきである

2) 情報提供

- 子どもからお年寄りまで誰もが理解しやすいよう、分かりやすく情報提供してほしい
- 短中長期の取組により、どのように生活が変化するかを示してほしい
- 短中期、長期のタイムスケジュールがわからない
- 計画の具体的な内容や試算結果について知りたい
- 沖縄鉄軌道ニュースの内容がわかりづらく、理解できなかった
- 沖縄鉄軌道ニュースの内容がわかりやすく理解が進んだ
- 関心があるので引き続き、情報提供してほしい
- 県の取組みをオープンにし、県民と意見交換しながら計画検討を進めることは、良い取組だと思う
- 県内の専門家や青少年、子育て世代など幅広い年齢・属性の住民から意見を聞いてもらいたい
- 幅広い県民の多様な意見を聴き取れるよう、様々なツール（手段）を使って意見を言えるようにしてほしい
- アンケートの問いかけがわかりづらい、何に対する意見を求めているのかはっきりさせた上で意見を募集してほしい

3) 意見への対応

- 多くの県民の意見を反映しながら、検討を進めてほしい
- 検討の場には、鉄道会社等、民間から専門知識を持ったメンバーを加えてほしい

4) 検討の体制

- バスレーンなど交通規制に関連する施策では警察との調整が大変だが、交通管理者とのかかわりはどう考えているのか。できるだけ早く関係機関に加えたほうが良いのではないかと
- 広く市町村やその市民との協議の上でプロジェクトを進めてほしい
- フィーダー交通については、市町村も巻き込んで検討を行うべき
- その他



現状及び課題、将来像、評価の視点について（ステップ 2）

1. 現状・課題について

1) 陸上交通について

- バス停上屋、便数や運行時間、定時性等バス等の利便性に課題がある
- 便数や運行時間、定時性、経路等バス等の利便性に課題がある
- 交通手段間の乗り継ぎが悪く、高齢者、観光の観点から課題
- 現在の公共交通の利用料金が高額である
- 現状はクルマ以外の選択肢が無く、車利用による交通渋滞、健康、飲酒問題等について意見が出された
- 交通事業者のマナーの改善等意識の向上等が課題
- 交通事業者のマナーは改善されつつある
- レンタカーが多い

2) 現在の取組について

- IC 乗車券システムやバスレーン延長等、現在取り組んでいる公共交通利用促進の取り組みは良い
- その他

3) 公共交通の利用促進について

- 高齢者などに対する割引運賃やバスとの乗継割引制度の導入など公共交通の低料金を図ってほしい
- 路線バスの無料化を図るなど、既存の公共交通利用の活性化に取り組んだ後、鉄軌道を導入するべきだ
- 現状の課題解決に向け利便性向上等、公共交通の利用促進に取り組むべき
- 現況のバスの使い勝手が良くなる様に、路線の再編と運行時間や乗り換えがわかりやすいシステムづくりをしてほしい
- バスレーン延長は不要とする意見
- バスレーンの拡充を求める意見
- 中短期の取り組みとしてバス網整備とモノレールとの連携を実施してほしい
- モノレール駅等の駐車場整備を求める意見
- 観光客の移動手段をレンタカーから公共交通に転換すべき
- IC カードについては、SUICA との相互利用等、利便性を向上してほしい

2. 将来像・対策について

1) 地域の活性化

①県土の均衡ある発展

- 沖縄全体が一つの都市圏となり、経済や観光の発展につながることを期待する意見
- 都市の一極集中から人口分散につながることを期待する意見
- 公共交通の利便性が向上すると観光だけでなく、地域の活性化も期待できる

②北部の活性化

- 北部の人口増加や観光客増加など地域の発展を期待する意見
- 中南部と北部を一時間で結ぶことにより、ストロー効果による影響が懸念される
- ストロー効果による影響等、メリット・デメリットを踏まえ、那覇一名護を 1 時間で結ぶ意義についてもっと議論すべき
- 鉄軌道等整備による過疎化への影響を検討すべき
- 北部までつなぐ必要はないのではないか
- その他

③中南部の活性化

- 中南部の活性化を求める意見

④東海岸の活性化

- 東海岸の活性化を求める意見

⑤離島振興

- 離島住民も利用しやすい計画を求める意見

2) 観光振興

- 将来の姿を実現すると観光振興が期待できる

3) 物流に関する意見

- 鉄軌道による流通機能の向上を期待する意見

4) 移動利便性に関する意見

①速達性、定時性等

- 北部と中南部間の移動時間の短縮等による利便性向上を期待する意見
- 移動時間の短縮、定時性の確保等利便性の向上を期待する意見
- 移動の選択肢が増えることを期待する意見
- 1 時間よりも速く移動できるようにすべき
- あまり速さにこだわる必要はない
- 車窓から楽しめるよう、1 時間にこだわる必要はないのではないかと
- 自転車やペット等と一緒に移動できるようにしてほしい
- その他

②通勤通学

- 時間短縮による通勤・通学圏域の拡大を期待する意見
- 通勤・通学の利便性向上に期待する意見

③交通弱者

- 高齢社会に向け、高齢者等の交通弱者、自動車を持っていない人などの移動利便性の向上が期待できる
- 引きこもりがちな高齢者の外出を促すという視点も重要だ

現状及び課題、将来像、 評価の視点について(ステップ2)

④観光客

- 観光客が短時間で様々な場所を回れるようになる
- 観光客の移動利便性の向上を期待する意見
- 観光においては観光収入 1 兆円、観光客 1000 万人を目標に平成 33 年度までのロードマップを作成している。今後さらにレンタカー需要が増加、駐車場等のニーズが高くなることを認識して欲しい
- 鉄軌道の整備には時間を要するので、中短期的な取組を行ってほしい
- 観光に資する公共交通があると良い

5) 渋滞緩和に関する意見

- 早期の渋滞解消を求める意見
- 鉄軌道の導入で渋滞緩和が期待できる
- 鉄軌道では渋滞解消できない
- 道路整備だけでは渋滞は解消できない
- 人口減少社会への移行に伴い、渋滞の解消、鉄軌道利用者の減が見込まれるため鉄軌道は必要無い
- 将来人口の減少に伴い自動車の交通量が減る可能性があり、また高齢者も圧倒的に多くなる

6) 県民生活に関する意見

①安全・安心

- 交通事故、飲酒運転の減少を期待する意見
- 踏切設置に伴う事故を懸念する意見

②健康

- 公共交通を利用し、歩く習慣がつくことによる健康増進や長寿を期待する意見

③経済性

- 鉄道を利用することで、車の購入・維持費や生活費などの大きな経済的な負担が軽減されることを期待する意見
- 運賃をできるだけ安く抑えてほしい

④県民生活の向上

- 県民生活の向上を期待する意見
- 子供達の活動範囲が広がり社会経験もできる

⑤ライフスタイルの変革

- 車依存型社会から脱却し公共交通利用転換を図るためには、県民の意識改革が必要とする意見
- 車依存型社会からの脱却が必要とする意見
- 車の乗り入れ規制や公共交通利用促進のための取組により車依存型社会からの脱却を図るとする意見
- 終電に間に合うよう早く家に帰るようになり、夜型社会が変わると良い

7) まちづくりに関する意見

①駅周辺整備を含めたまちづくり

- 鉄軌道の整備により駅周辺の活性化が期待できる
- 鉄軌道をつくるだけでなく、駅周辺の道路や歩道、駐車場、駐輪場等の整備なども行い、駅を中心に快適に利用できるようにしてほしい
- 駅周辺は、ショッピングセンターなどの設備を充実させてほしい
- 交通結節点の整備は、土地の確保等自治体には大きなポイントとなる

②駐留軍用地跡地の活用

- 駐留軍用地跡地を活用した鉄軌道整備を求める意見

8) フィーダー交通との連携／充実

- 既存交通との連携を図り、乗り継ぎがしやすく隅々まで行き届いた交通サービスを求める意見
- 県民生活、地域振興、観光などの観点からも隅々まで行き届いた交通サービスが必要
- 駅までの距離が遠いと利用しないのではないかという意見
- LRT等の整備により既存の市街地の活性化も期待できる
- フィーダー交通のあり方については、十分検討すべき

9) 車利用に関する意見

- 鉄軌道が導入されても、自家用車やレンタカーを使う人は多く、車社会は変わらないと思う
- 鉄軌道ではなく道路整備を求める意見
- 自動車の利便性も確保してほしい
- 自動車業界等への影響を懸念する意見
- その他

10) 地球・自然・生活環境に関する意見

①地球環境

- 自動車利用が減ることにより、排気ガスや CO2 の排出量の削減が図られ、環境改善が期待が期待できる

②生活・自然環境

- 騒音等生活環境の悪化を懸念する意見
- 整備に伴う自然環境への影響を懸念する意見

11) 財政負担に関する意見

- 県財政に負担にならないか、税負担が増えないか心配
- 税金のムダ
- 国の予算で導入してほしいとする意見
- 国へ要望するのではなく、事業費は沖縄県民が負担すべき

12) その他

- 将来の姿の実現に向けた対策を計画的、段階的に進めることはいいことだする意見
- 鉄軌道の必要性がわからない
- 具体的な沖縄の将来の姿が見えない

- 将来の姿について、実現性があるのか疑問である

- 将来の姿の実現に向けた対策に対し、効果を疑問視したり、施策の前倒し等を求める意見

- 将来の姿の実現に向けた対策は必要無いとする意見

- 公共交通の利便性向上等、鉄軌道以外の対策で課題は解消できるのではない

- LRT、BRT の導入の際、バス会社やタクシー会社を合併させてはどうか

- その他

3. 将来像・対策について

1) 事業による効果

①県土の均衡ある発展

- 沖縄の経済・観光の振興の観点が重要
- 均衡ある発展、地域の活性化、地域間交流という観点が重要
- 人口増加や定住化促進、観光客増加等による北部の振興という観点が重要
- 通勤・通学圏の拡大等、北部振興の観点が重要
- 北部のまちづくりの観点が重要

②観光リゾート地の形成

- 移動時間短縮による移動圏域の拡大、移動手段の選択肢拡大等観光客の移動利便性の観点が重要

③高齢者を含めた県民及び観光客の移動利便性の向上

- 定時性が重要
- 移動時間短縮、移動の快適性等が重要
- 通勤・通学圏拡大の観点が重要
- 子供、高齢者等の視点、及び利用しやすい環境づくりが重要
- 交通事故の減少など、安全・安心の観点が重要
- 鉄道事故や人身事故が発生する可能性があるため、安全性を重視してほしい
- 公共交通利用転換による健康増進の観点が重要
- 県民及び観光客等、利用者の視点を重視すべき

④中南部都市圏の交通渋滞の緩和に関する意見

- 渋滞緩和が重要（評価）
- 渋滞緩和や時短による経済効率が向上するかが重要（評価）

⑤まちづくり

- 市街地形成、駐車場整備など駅周辺のまちづくりの観点が重要
- 自動車による鉄軌道までのアクセスとして、駐車場整備の検討は必要

⑥駐留軍用地跡地の活用

- 跡地の活用を重視すべき

⑦低炭素社会の実現

- 地球環境に配慮した視点が必要だ

2) 費用対効果

- 費用対効果（利用者数等）の視点が重要

3) 採算性分析

①採算性分析

- 鉄軌道が赤字にならず、事業の継続性が重要という意見
- 運営主体の採算性が課題
- 赤字経営や過疎化の加速など、採算が取れなかった場合の対応をあらかじめ想定しておく必要がある

②利用料金

- 利用料金が重要（評価）
- 利用料金等、利用者に必要な情報提示が必要

4) 経済性

①事業費

- 出来るだけ事業費を抑えてほしい
- 事業費の視点が重要
- 事業費の捻出が必要だ
- 鉄軌道整備に係る地元市町村の財政負担

5) 施工性

①事業期間

- 土地取得に時間がかかり、事業期間が長くなることが心配
- 早期実現を望む
- 評価項目に施工性があるが、実際の工事よりも用地買収や都市計画決定の手続きに時間を要するためその点にも留意すべき

②工事中の影響

- 工事に伴う自動車交通への影響が懸念される

6) 生活・自然環境への影響

①自然環境

- 自然とのバランスを考えた沖縄らしい計画にしてほしい
- 自然環境への影響が心配、最大限配慮してほしい
- 自然保護を第一に考えてほしい。
- 長期的視点で、導入後まちづくりが進んだ後の影響を考慮すべき

②景観

- 沖縄らしい街並みなど景観の観点から残すべきだ
- 海、街並みなど景色を楽しめるルートが重要

③騒音

- 騒音に関する視点が必要だ

現状及び課題、将来像、 評価の視点について(ステップ2)

7) その他視点

①貨物

- 流通面の視点が必要
- 経済的側面での利便性、物流についても考慮してほしい

②交通事業者への影響

- 既存交通事業者への配慮が必要だと思う
- 鉄軌道の影響を受ける既存の交通事業者の経営を考慮すべき

③自然災害への対応

- 台風襲来や災害等に対する耐災害性の視点も必要
- その他

④フィーダー交通ネットワーク

- 全地域をカバーしているか、利便性の観点が重要
- 家から駅へのアクセス等、公共交通ネットワーク構築の視点が重要
- 基幹軸だけでなく、フィーダー交通もセットで評価を行う必要がある

8) 幅広い視点で評価すべき

- 全ての視点が重要
- 複数の視点が重要
- 移動の利便性（通勤・通学圏の拡大、速達性、渋滞緩和）の視点が重要
- 県民生活（安全・安心、健康増進等）の視点が重要
- 地域活性化（定住化促進、地域間交流、地域産業の活性化）の視点が重要
- 観光振興（観光客の移動利便性、移動圏域の拡大）の視点が重要
- まちづくり（コンパクトなまちづくり、駅周辺のまちづくり）の視点が重要
- 地球環境（CO2削減）の視点が重要
- その他

計画内容に関する意見（ステップ3以降）

1. 起終点に関する意見

- 那覇一名護間への整備を求める意見
- 特定の地域までの整備を求める意見
- 那覇以南、名護以北への整備を求める意見
- その他

2. ルートに関する意見

- 沖縄本島を網羅するルートを求める意見
- 本島の東側を通るルートを求める意見
- 東西格差を解消するため東側ルートを求める意見
- 本島の西側を通るルートを求める意見
- 人口・観光施設の立地状況等から西側へのルートを求める意見
- 東西を横断するルートを求める意見
- 複数（東側、西側、環状線等）のルートを求める意見
- 観光・車窓からの景観の観点から海岸線ルートを求める意見
- 埋立ルートは避けてほしいとする意見
- 329号や沖縄自動車道の活用に関する意見
- その他

3. 導入するシステムに関する意見

- 路面電車（LRT）の導入を求める意見
- LRTが整備されれば既存のバス会社が運営、すべきと考える
- 車では名護まで1時間で行けるストローク効果なども含め、総合的に那覇一名護を1時間で結ぶという前提だけでなく、LRTにすることも含めて幅広い議論をやっていけるような提示をしてほしい
- 工期が短く、費用が少ない環境面で優位性のあるLRTを導入してほしいとする意見
- バス・BRTで良いとする意見
- 費用が少ないBRTを導入してほしいとする意見
- モノレールの導入、延伸を求める意見

- 鉄道・リニア・新幹線などを導入してほしいとする意見
- スピード、輸送力の観点から鉄道等を導入してほしいとする意見
- 海上交通の整備で良いとする意見
- 道路、歩道、自転車等の整備の充実を求める意見
- 道路等の有効利用を図り、現状のまま新たな整備を行わないとする意見
- その他

4. 駅の位置に関する意見

- 特定の場所への駅整備を求める意見
- 多くの人が利用しやすい場所への駅整備を求める意見
- 多くの人が利用しやすいよう駅数を増やしてほしいとする意見
- その他

5. 事業主体に関する意見

- 民間の活力を活用して、整備・運営してほしいとする意見
- 公的機関を主体に運営してほしいとする意見
- その他

6. 段階的な整備に関する意見

- できる所から、又は一部の地域から先行して整備してほしいとする意見
- 基幹ルートから先に整備すべきとする意見

7. 導入空間・用地・構造

- 既存の道路の活用を求める意見
- 新たな用地の取得が課題とする意見
- 高架、又は地下構造での整備を求める意見
- その他

8. 関連する整備に関する意見

- 市街地の整備や活性化を同時にすすめてほしいとする意見

9. その他

- その他

その他

1. 鉄軌道事業以外に関する行政への要望・提案

- 空港を拡張・新設してほしい
- その他

2. 質問

- 用語がわからない
- その他

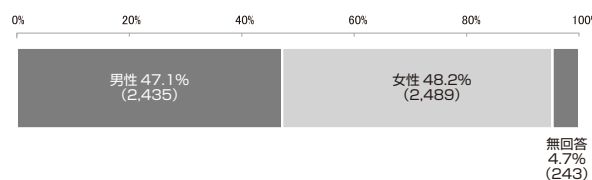
3. 賛否のみの意見



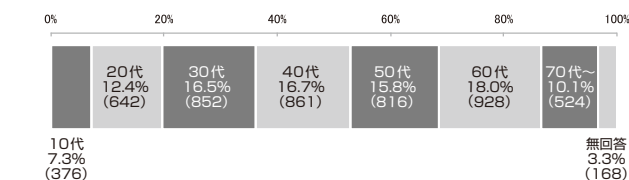
■意見の集計結果について（性別、年齢層別の割合）

・女性からのご意見が若干多かったものの、年齢構成は10代から70代以上にわたり、幅広い年齢層からご意見を頂きました。

《性別》



《年齢》



※全てのご意見(分類前)は、ホームページで紹介しています

沖縄鉄軌道構想段階PI ホームページ

<http://oki-tetsukidou-pi.com/>

〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎 1-2-2 沖縄県企画部交通政策課

電話：098-866-2045 メールアドレス：info@oki-tetsukidou-pi.com



沖縄鉄軌道

検索